

日本留学生に関する調査

最終報告

日本国際化推進協会

ツェン・シュージェー・オステイン

前書き

日本政府が 2008 年に、来日する日本留学生の総数を 2020 年までに 30 万人に増やす、「留学生 30 万人計画」を発表しました。

その社会背景には、少子高齢化による日本人学生の減少に直面している大学の再生や、卒業後日本企業に就職し、日本経済の一端を担ってもらうなどの思いが込められました。また、日本のみならず世界規模の国際化の流れにおいて、世界各地にいる知日・親日人材の育成は日本の国益に繋がると思われます。

今回の調査は、そんな留学生を取り巻く状況を調べるために、一般社団法人 日本国際化推進協会（以下 JAPI）が実施しました。具体的には、留学生がなぜ日本に来るのか、日本留学を阻害する要因は何でどのような問題が挙げられるのかという来日前の問題のほかに、留学生が来日後に直面する日常生活の困難についても触れました。

また、アンケート調査に加えて、JAPI はアセアン各国の在日留学生協会の代表と、問題の突き詰めや議論を進めてきました。この在日留学生協会の代表は各国の現状を十分に認識していることから、この問題における有識者だと思われます。したがって、議論で出された意見などを随所でご紹介します。

2016 年の 3 月までに東南アジアをメインに約 900 人から回答を得ることができました。また、7-8 月に追加募集していた主に東アジア出身の約 500 人から回答を回収することができました。これによって、総数が 1300 人を超え、留学生の意識調査としては珍しい規模に達しました。ご協力下さった留学生の皆様には深く感謝申し上げます。この調査結果をもとに、各大学、公的機関などが主体的に課題に対して策を講じ、この調査が最終的に留学生誘致・留学生の待遇の改善に繋がることを望みます。

お問い合わせがある方は、info@japi.or.jp までお問合せください。

目録

- 1) 回答者性質
- 2) 分析
 - a) 来日前
 - i) 日本全体に対するイメージの問題ではなく、個々の大学のイメージ不足が問題
 - ii) 情報拡散においてインターネットは抜群の効果
 - iii) 「言語の壁」は克服できるもの
 - iv) 経費に関しては正確な情報を
 - v) 来日前：追加資料
 - b) 来日後
 - i) 日本留学に対する評価
 - ii) 手続きのサポートは重要課題
 - iii) 日本人との関わりを創ることに欠けているのは「日常的なふれあい」
 - iv) 留学生の卒業プランに関して
- 3) 追加資料
- 4) 付録
 - a) 国籍別回答者・経済発展度算出方法・タグされた地域
 - b) 調査質問及び結果一覧

回答者性質

今回の調査対象は、2016年までの5年間に日本で留学体験をしたことがある外国人である。これには、現役留学生だけでなく、交換留学すでに母国へ帰っている人、直近5年間以内に日本の大学を卒業・中退した人も含くまれている。

合計で1376人からの回答が集まっている。回答者の属性を、下記に示す。

出身地域・出身国

追加募集をした東アジアからの回答(42%)が最も多く、次に東南アジア(41%)からの回答が最も多かった。三番目に多かったのはいわゆる「欧米系」のグループだった(9%)。

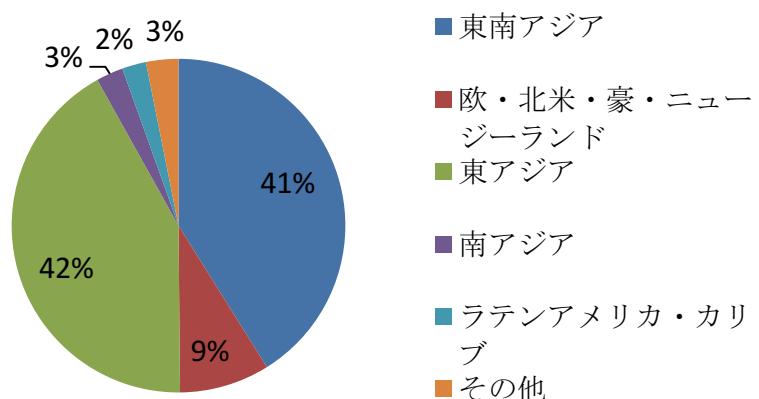


図1：地域別回答者比率(4名の国籍不詳・二重国籍除く)

また、表1に回答者の出身国上位10か国を示す。回答者で最も多いのは中国からの出身者で516人である。アジアの国が上位10か国を占め、中国・インドと韓国以外は全部東南アジアの国である。

教育段階

図2に教育段階別に回答者比率を示すとおり、回答者は学部生、修士と博士の順に多かった。今回の分析では、この3つのグループそしてグループ間の差にクローズアップしていく。

国名	合計
中国	516
インドネシア	260
ベトナム	102
タイ	49
ミャンマー	46
韓国	40
シンガポール	37
マレーシア	32
フィリピン	30
インド	20

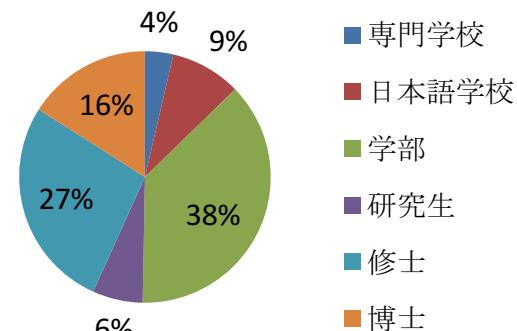


図2：教育段階別回答者比率

留学年数

図3に回答者の留学年数を示すとおり、2年以下の留学経験者が過半数を占める。年数を重ねてから変化する態度も本調査では分析する。

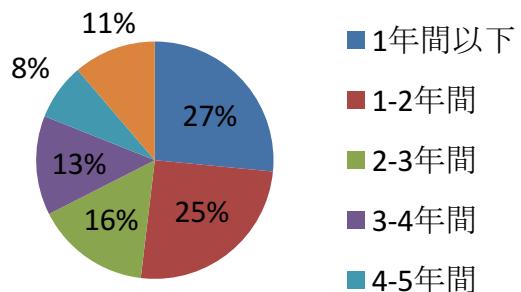


図3：留学年数別回答者比率

交換留学であるか

図4に交換留学生の比率を示すとおり、交換留学生がおよそ5分の1を占める。

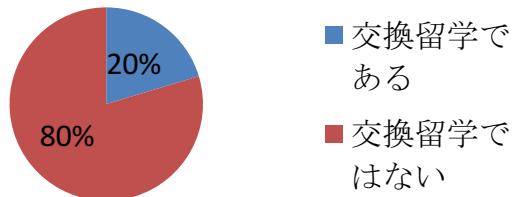


図4：交換留学の有無別回答者比率

男女比

図5に回答者の男女比を示すとおり、回答者には女性が若干多いということが見られるが、大きい偏りが見られなかった。

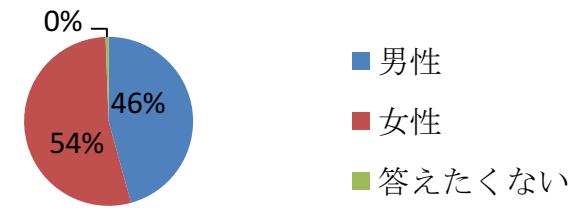


図5：回答者の男女比

現住所の都道府県

図6は地域別回答者比率を示している。p45の調査質問及び結果一覧に回答者が住む都道府県を記載した。

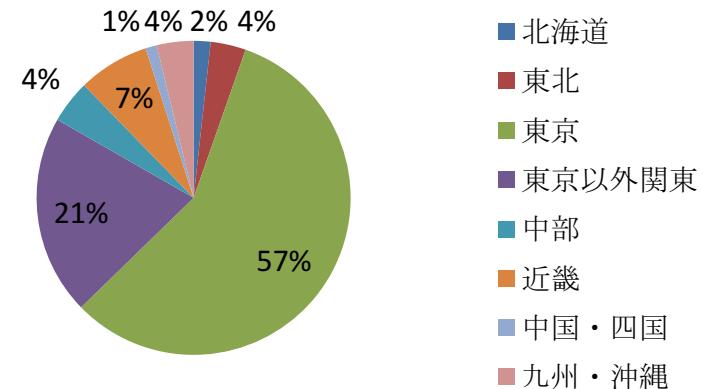


図6：地域別回答者比率

奨学金の受給

奨学金の受給の有無ではなく、奨学金名を記入してもらう項目を設けた。その結果は表 2 のとおりである。

表 2 : 奨学金種類別回答人数

奨学金の種類	回答人数
MEXT/JASSO	535
その他日本国費 (JDS/JICA など)	25
日本の大学奨学金 (学費免除を含めて)	59
日本の民間奨学金	72
海外による奨学金	67
その他	7
不詳	17
未記入	589

分析

来日前

本章では、留学生が来日前に直面する話題に触れる。特に、留学生が日本に来る動機などについて説明する。ここでは留学生誘致に関する現状および成功するか否かのポイントを考えたい。

ただし、その前に留意しないといけないのは、「日本留学」と「日本」そのものに対する捉え方は留学生の出身地域などによって異なることである。下記の分析の中に合算した分析が多くため、留学生内の多様性について注意が必要だ。ただし、出身地域・出身国の経済発展度などによる明確な差があった場合、それについても記す。

トピック 1：日本全体に対するイメージの問題ではなく、個々の大学のイメージ不足が問題

キーポイント：

- ❖ 日本全体に関するイメージが問題である証拠が乏しい。
- ❖ 個々の大学に関する情報が不足している。
- ❖ ただし、先進国出身の方が、日本留学に対してそもそも無関心・キャリアの透明さを重要課題として挙げる。
- ❖ 同じ傾向も学部生に見える。

図 7 に、交換留学生がなぜ日本留学をしたかの理由を示す。また、資料 1 に 2013 年の国の人一人当たり国民総所得（GNI）で、世界の各国を 6 つのグループに分けた場合の結果を示し、資料 2 に学校種類別の回答を示す。図 9、資料 3 と資料 4 に、回答者が考える、自國の人が日本留学をしない理由に関するデータも示す。

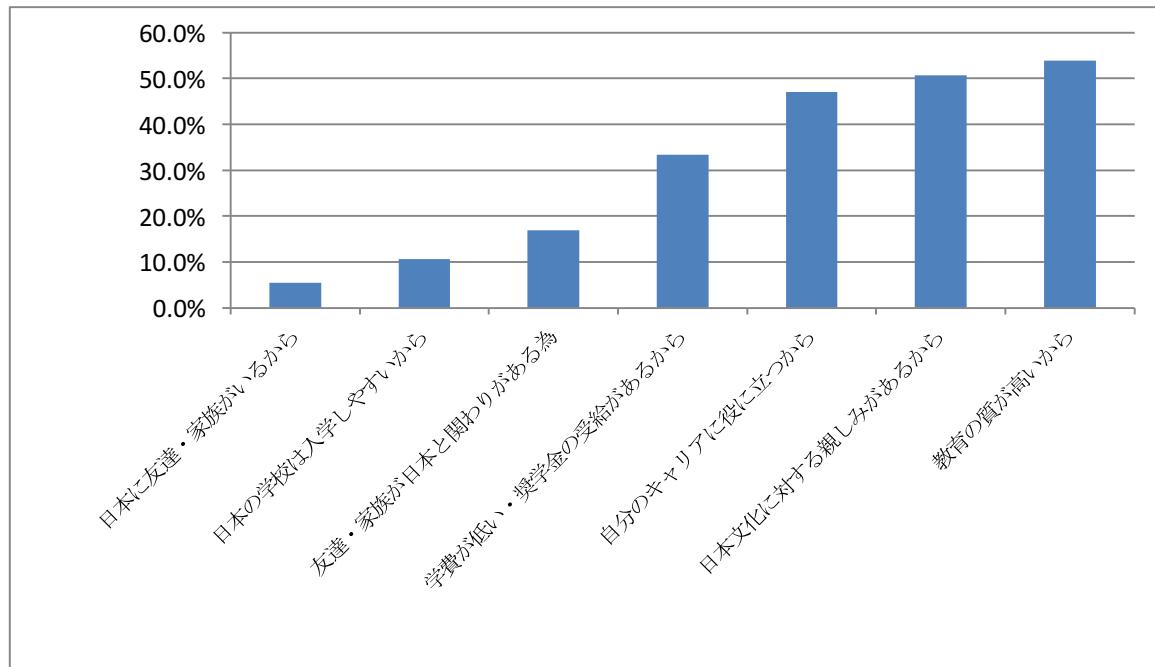


図 7：日本に留学しようと思った理由を選んでください。
当てはまる選択肢を全部選んでください。(選択無制限・N=1096)

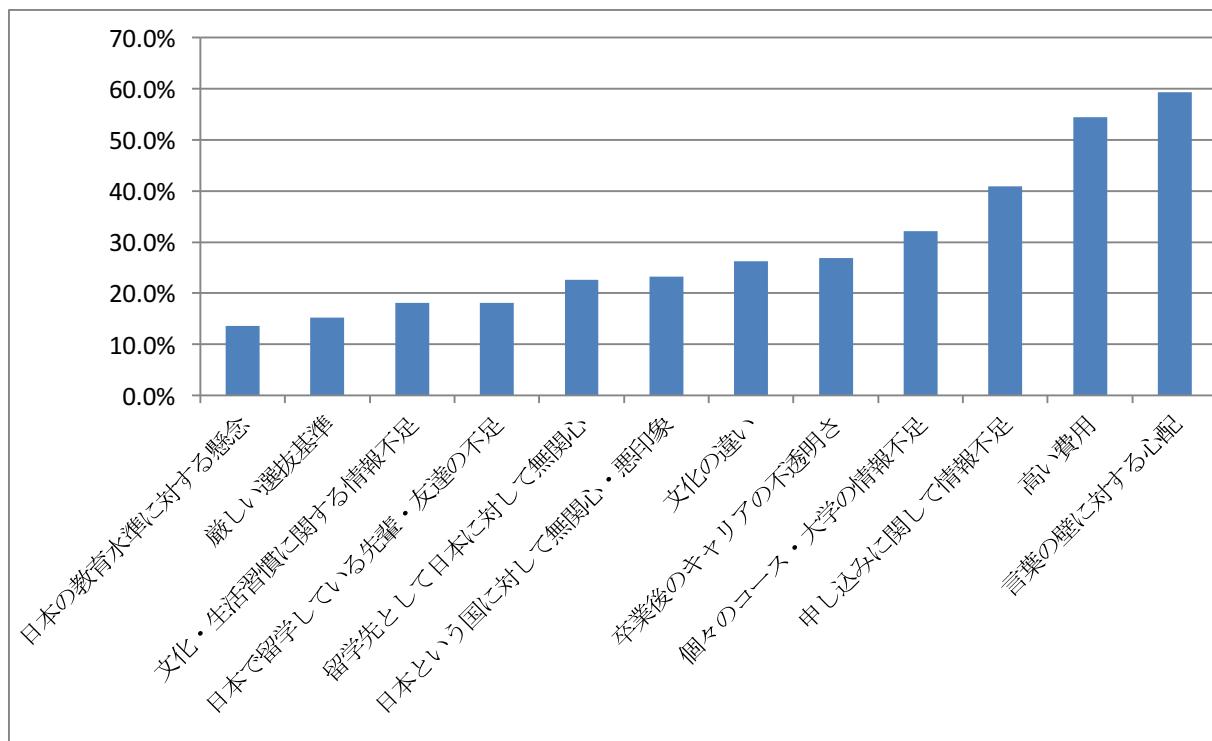


図 8：あなたにとって、あなたの国的学生に
日本留学を妨げている要因は何ですか？（4択まで・N=1096）

図 7 のとおり、非交換留学生が日本留学を選んだ理由に最も多かったのは日本の教育水準である。つまり、多くの回答者が来る前にも日本の教育水準を評価していたことがわかる。

まずは、情報不足のテーマから始めたい。図 8 が表すように「申し込みに関する情報不足」と「個々のコース・大学の情報不足」が「日本という国に対して無関心・悪印象」と「日本の教育水準に対する懸念」を遥かに上回っている。つまり、日本全体のイメージはある程度浸透しているものの、個々の大学が広く知られていないことが考えられる。

ちなみに、資料 3 で見られるように、中国が入る経済発展度 61-90 位のグループにおいて「日本という国に対して無関心・悪印象」の比率が他グループに比べて高い点を除いて、この状況はどちらのグループにも当てはまることである。

つまり、日本全体に対する悪印象・教育水準に対する懸念よりは、個々の大学の情報不足や説明不足、あるいはアウトリーチ不足が課題になってきている。これに関連して、図 10 に、非交換留学生が来日する前にどういうような情報を求めていたのかを示す。

最も多く回答があった選択肢は「学校」であり、3 位に「学校内の専攻」が挙げられている。従って、大学それぞれの情報の不足が深刻な問題となってきている。次の節に、そのような情報を拡散するためにはどのような対策をとれば良いかについて述べる。

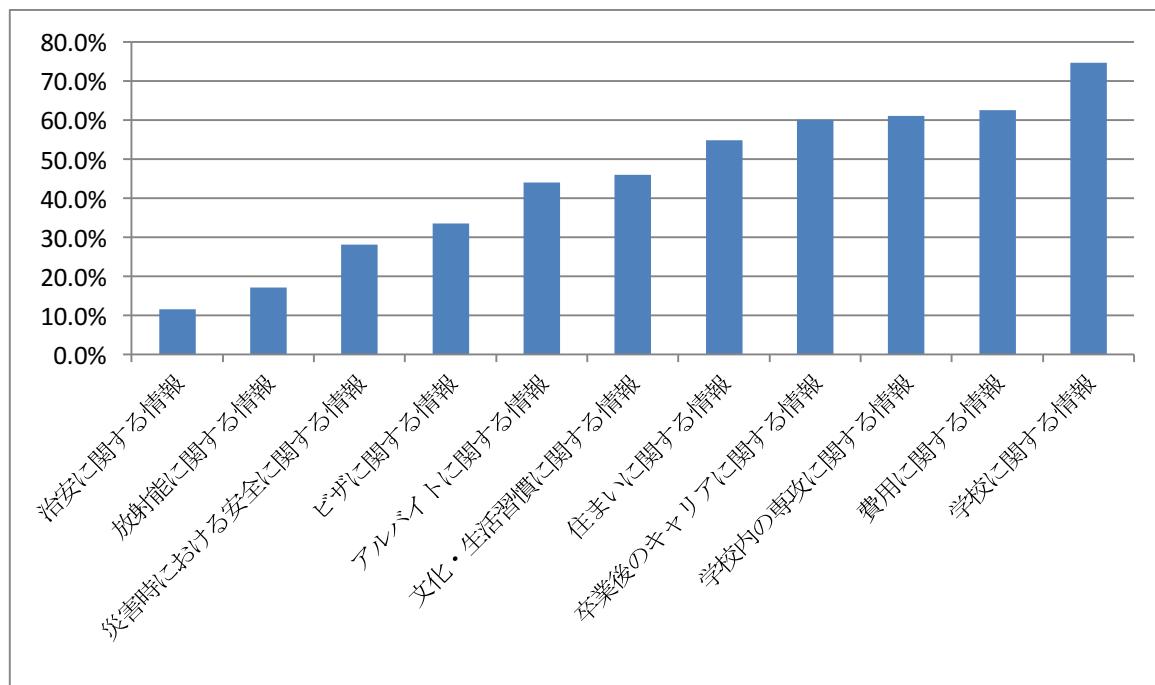


図 9：日本に来る前に、どういう情報がもっとほしかったと感じましたか？（選択無制限・N=1096）

先進国・学部生の状況

その前に、グループ間の差について触れたい。表 3 と表 4 に国の「発展度」別、日本に来た理由・そして日本になぜ留学生が来ないかについていくつかの項目を抽出した。

見てのとおり、日本留学に関する要因は出身国の経済状況によって大きく異なる。その国の人当たり GNI が高ければ高いほど、日本文化を留学する要因として挙げる比率が高まる。一方、教育の質を理由にする比率が急激に下がる。

また、日本に留学しない理由を見ると、一人あたり GNI に準じて教育水準に関する懸念・無関心と卒業後のキャリアの不透明性を答える確率が高くなる。一方、表 4 に入れていないが、上位 30 か国に関

表 3：国の発展度・項目別回答率、日本留学をした理由（抜粋）

国の経済発展度	日本文化に対する親しみを持っていたから	教育の質が高いから
上位 30 か国 N=116	67.0%	21.7%
31 位から 60 位まで N=58	58.6%	37.9%
61 位から 90 位まで N=582	49.9%	54.3%
91 位から 120 位まで N=253	47.4%	65.6%
121 位から 150 位まで N=118	49.2%	65.3%
151 位以下 N=48	33.3%	56.3%

表4：国の発展度別項目別回答率、日本に留学しない来ない理由（抜粋）

していると「高い費用」を答える比率が他グループに比べて明らかに低い。

特に、学費を払えるいわゆる「先進国」からの学生を誘致したい学校にとって、これは大きな注意点である。いわゆる「発展途上国」から来る留学生にとって、日本は先進国であり、技術の面で進んでいる印象が強いと本調査の結果が示唆している。そのことから、教育の質や卒業後のキャリアに関しては安心して日本に留学することができると思われる。

一方、いわゆる「先進国」に関して、文化の点をより一層アピールし、教育の質や卒業後のキャリアに関する補充的な説明をする必要があると思われる。

国の経済発展度	日本の教育水準に対する懸念	留学先として日本に対して無関心	卒業後にキャリアの道の不透明さ
上位30か国 N=93	25.0%	37.9%	35.3%
31位から60位まで N=58	12.1%	29.3%	32.8%
61位から90位まで N=582	9.3%	20.6%	31.3%
91位から120位まで N=253	18.6%	20.2%	17.0%
121位から150位まで N=118	9.3%	17.8%	20.3%
151位以下 N=48	6.3%	12.5%	25.0%

また、類似している傾向は学部生の方でも見られる。詳しくは資料2と資料4の表を参照して頂きたい。

トピック 2：情報拡散においてインターネットは抜群の効果

図 10 に交換留学生でない回答者が、日本留学の準備や応募の際にどのような情報源を利用したかを示す。また、図 11 に、各情報源を利用していた人に関して、各情報源がどのくらい役に立ったかを示す。

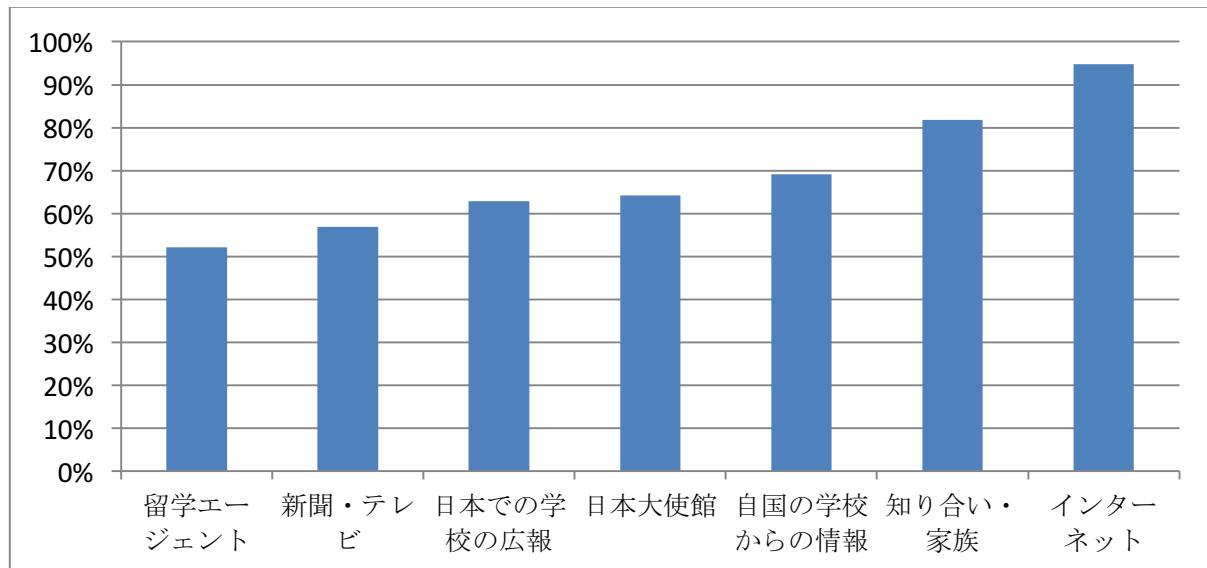


図 10：「来日する前に、日本留学に関して次の情報源はどのくらい役に立ちましたか？」、「この情報源を使っていない」以外の回答率、交換留学生除く (N=1096)

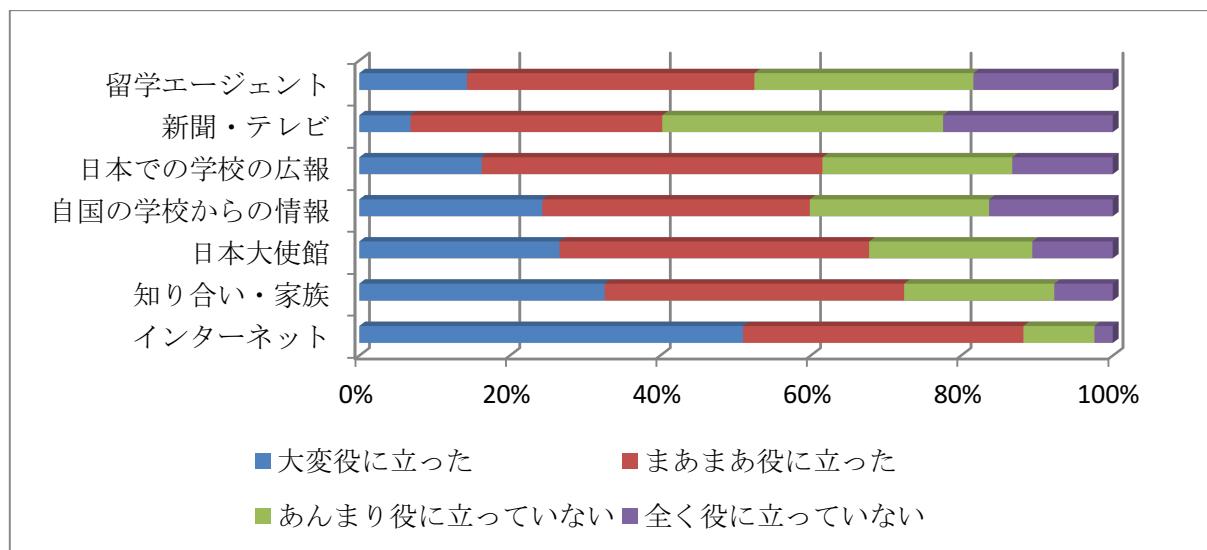


図 11：「来日する前に、日本留学に関して次の情報源はどのくらい役に立ちましたか？」、「この情報源を使っていない」の回答を除く、交換留学生除く (N=1096)

見てのとおり、最も利用された情報源はインターネットであり、役に立ったと答えた比率も最も高い。意外にも「知り合い・家族」を答えた比率が高く、前節の内容と照らし合わせると、友達・家族と日本の繋がり自体は日本に来る要因になる比率は低いが、いざ日本留学が決まつたら、あるいは検討し始めたら知り合い・家族から情報を聞くことが多いことが考えられる。

情報の不足に関する課題を ASEAN 各国の代表との議論で突き詰めた。それを個別に紹介していく。

・インターネットに関して

最も大きい問題は情報更新である。議論の中では、英語のウェブサイトの更新が滞っていたり、大学、特に専門分野やコースに関する詳細情報の情報欠陥があるということが報じられた。正しい情報が伝わらないこと以上にイメージダウンにも繋がることに注意が必要である。

それのみではなく留学検討中の人人が注意しうる尺度を記したい。申し込む際には、研究業績と出版論文の他に、Google Scholar におけるメトリックおよび研究の引用数などをトラッキングする Scopus も注意しないといけない。

・留学フェア

留学フェアが行われている国もあれば、行われていない国もある。ただし、留学フェアが開催されているタイでは、参加する大学がコース情報などの具体的な内容が載っている書類を持っていなかったり、大学の代表が具体的な質問に対して満足させられる答えを提供できていないなどの問題がある。

・大学の広報

現地の高校などに対してダイレクトにアウトリーチを行うことは多少効果的だという結論に達した。例えば、シンガポールにおいてアウトリーチで最もアクティブな大学は早稲田大学であり、そのため日本にいるシンガポール留学生が最も多いのも同校である。また、立命館アジア太平洋大学のインドネシアにおけるアウトリーチが、同校におけるインドネシア人留学生の高い人数に繋がっている。

また、メディアを通じた広報の効果も大きくなりうる。インドネシアにおいて、シンガポールのシンガポール国立大学と南洋理工大学が近年インドネシアでテレビ CM を放送した。それによって、2 校におけるインドネシア人の留学生数が急増した。

・留学エージェント

留学エージェントを利用するかどうかに関しては国別では大きい差があることが分かった。ベトナムとミャンマーが日本留学に関する留学エージェントを利用する傾向にある一方で、タイではイギリスとアメリカ留学に関する留学エージェントはあるが日本留学に関するエージェントはないようだ。インドネシア・フィリピンとシンガポールの場合そもそも留学エージェントそのものの知名度が全体的に低い。

ただし、ベトナムとミャンマーで悪質な留学エージェントの問題がある。アルバイトが簡単に見つかるやビザ更新に全く問題がないなどの現実とかけ離れた説明や詐欺などが報じられているため、早急の対応が望ましい。

トピック 3：「言語の壁」は克服できるもの

図 9 で見られるように、各国の学生がなぜ日本留学を避けるかの項目に対して、「言語の壁」と答えた人が 60%にまで上り、約 5 分の 3 である。また、同項目に関して東アジア出身の回答者が「言語の壁」と答えた比率は 50%以下と低かったが、他地域の回答者が 70%から 80%まで上った。特に英語圏に比べてこれはある程度やむを得ない状況であるが、この点に関する懸念も多少和らげることはできると思われる。

図 12 に、留学年数及び来た当初の回答者の日本語レベルを示す。

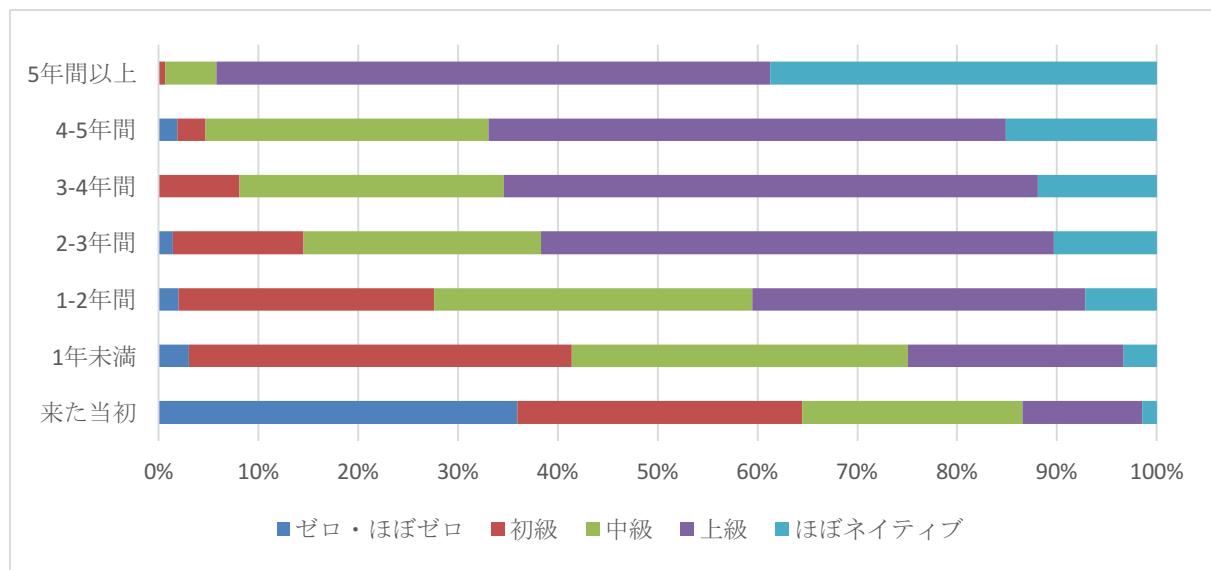


図 12：留学年数「日本語能力について教えてください。」(N=1376)

図 12 で見られるように、少数（4 割弱）の留学生しか中級以上を持っていなかった。しかし、1 年未満の段階でも留学生の半数が中級レベルに達し、来日以降 2-3 年間で半数が上級レベルに達する。普通の 4 年間を過ごすと、半数以上が日本語を上級レベルで話せるようになる。本調査では、課程が英語か日本語で行われているかについての質問を設けなかったが、日本語を使用しなければならないコースであれば日本語の上達がより速いと考えられる。

もちろん、英語コースを提供している大学であれば英語コースのアピールをすることも重要だと考えられる。ただ、本調査でわかるように、時間（と努力）を経れば、日本語の習得も可能だということを証明している。この情報を各大学の広報で活用していただければと思う。

トピック 4：費用に関しては正確な情報を

図8で見られるように、費用は日本留学に関する大きな障壁になっている。ただし、これはどのくらい現実に基づいており、どのくらい印象論にすぎないかを考えなければいけない。

まず、学費に関して、日本の国公立大学の1年間当たりの学費は他の主な留学先¹の3~4分の1に相当する。私立大学の学費でも、他国の留学先の半分になることも少なくはない。

昔から日本での生活費が高いと言われるが、これは本当に従来と変わらないイメージなのかを調べるために、回答者に1か月の平均出費を聞いた。居住都道府県の都市規模別、結果を図13に示す。

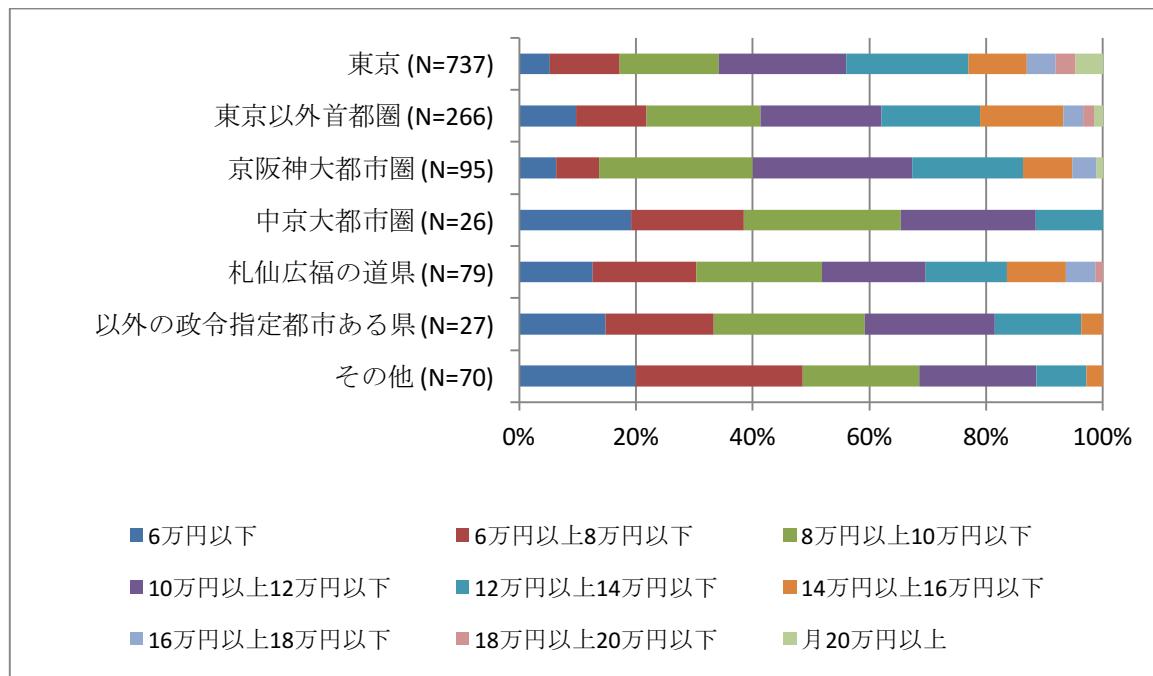


図13：都市規模で都道府県を分けたグループ別月間総支出（無回答を除いて N=1300）

見てのとおり、支出に関するばらつきが非常に大きい。しかし、首都圏及び関西大都市圏において中央値が10万円-12万円前後であり、その他の場所において中央値が8-10万円にある。

もちろん、これは大まかな算出であり、実際の出費に関連するのはこれらの要素を考慮しないといけない。

- 窓の有無、あるとしたら窓費、食事が付いているか。
- コース内容。一部のコース（芸術関連・一部の理科）が材料購入を必要とする。
- 収入。

ちなみに、表6で収入額別支出を示す。見てのとおり、ほとんどの留学生の支出は収入額の範囲に収まる。あるいは差額がゼロである。つまり、家計的に赤字になっている留学生が

¹ 注：学費免除のイギリスを除いた西欧は例外

少ない。ただし、6万以下のグループの3割を超える比率の人は赤字に直面していることも確認できる。

表5：収入別支出（計算に無回答入れず・支出が収入を上回っている項目は太字で示す）

右:支出 下:収入	6万円以下	6万円以上8万円以下	8万円以上10万円以下	10万円以上12万円以下	12万円以上14万円以下	14万円以上16万円以下	16万円以上18万円以下	18万円以上20万円以下	20万円以上
6万円以下(N=186)	33.9%	15.1%	14.0%	13.4%	9.7%	2.7%	2.2%	4.3%	4.8%
6万円以上8万円以下(N=135)	17.0%	54.8%	10.4%	9.6%	3.0%	2.2%	3.0%	0.0%	0.0%
8万円以上10万円以下(N=143)	3.5%	20.3%	57.3%	10.5%	4.9%	0.7%	0.7%	1.4%	0.7%
10万円以上12万円以下(N=174)	0.6%	11.5%	28.2%	48.3%	6.9%	2.3%	0.6%	1.7%	0.0%
12万円以上14万円以下(N=196)	2.6%	4.6%	15.3%	31.6%	40.8%	3.6%	1.0%	0.0%	0.5%
14万円以上16万円以下(N=271)	1.1%	1.8%	10.0%	20.7%	32.1%	28.8%	2.6%	1.8%	1.1%
16万円以上18万円以下(N=61)	0.0%	3.3%	9.8%	6.6%	23.0%	19.7%	32.8%	3.3%	1.6%
18万円以上20万円以下(N=46)	2.2%	4.3%	4.3%	15.2%	8.7%	21.7%	23.9%	17.4%	2.2%
20万円以上(N=51)	0.0%	0.0%	9.8%	17.6%	5.9%	13.7%	0.0%	5.9%	47.1%

このデータの解釈方法はいくつか存在する。

- 留学生が与えられた収入に合わせて支出を抑えたり、拡大したりする
- 留学生の支出が一定であり、その支出額まで、あるいはそれ以上の水準までにアルバイトなどで収入を増やす。

- 留学生がおおよそ必要とする支出のレベルを理解しており、その支出を賄うことができない人はそもそも来ない。

図9で上がってきた費用に関する情報不足を鑑みると、3番目の説明の信憑性が低いと思われる。残りの1番目と2番目の要因のどちらが強いかは今後検討する課題である。

また、アルバイトに関して以下のデータが得られた。来日年数及び教育段階別（一部抜粋）で表6に示す。

表6：留学年数・教育段階（抜粋）別一ヶ月アルバイトによる収入（計算に無回答を入れず・中央値が落ちる項目を太字で示す）

	ゼロ	2万円以下	2万円以上4万円以下	月4万円以上6万円以下	月6万円以上8万円以下	月8万円以上10万円以下	10万円以上12万円以下	12万円以上14万円以下	14万円以上
全体	38.0%	11.3%	13.7%	11.9%	9.9%	6.3%	4.9%	1.4%	2.5%
来日年数別									
1年未満 (N=285)	62.8%	7.7%	9.5%	6.7%	7.4%	4.6%	1.1%	0.4%	0.0%
1-2年間 (N=268)	41.4%	11.9%	14.6%	12.7%	8.2%	4.5%	2.6%	2.2%	1.9%
2-3年間 (N=177)	31.1%	9.0%	16.4%	13.6%	11.3%	5.6%	9.0%	0.0%	4.0%
3-4年間 (N=155)	26.5%	18.7%	13.5%	12.9%	11.6%	8.4%	4.5%	1.3%	2.6%
4-5年間 (N=92)	21.7%	16.3%	14.1%	10.9%	15.2%	10.9%	8.7%	2.2%	0.0%
5年間以上 (N=142)	13.4%	9.2%	16.9%	18.3%	11.3%	9.2%	9.9%	3.5%	8.5%
教育段階別									
学部 (N=476)	30.5%	13.7%	15.8%	12.6%	9.3%	7.4%	4.8%	3.8%	2.1%
修士 (N=285)	42.8%	9.8%	17.2%	12.6%	8.8%	3.9%	3.5%	0.4%	1.1%
博士 (N=131)	49.2%	13.3%	7.0%	10.2%	9.4%	1.6%	4.7%	1.6%	3.1%

上記のデータが示しているように、学部生でアルバイトで稼いでいる人は他グループより若干多いが、全体として各グループ間の差はそれほど大きくない。一方、留学年数とアルバイトをしている比率、そして稼いでいる金額と大きく関連する。来日する最初の1年間は日本に慣れるために多くの時間を割き、日本語能力の欠如や知識不足などの要因で、アルバイトをする人はごく一部だ。ただし、1年を過ぎた時点で何らかのアルバイトに着手している人が過半数になり、年を重ねるにつれて稼ぐ金額が大きくなる傾向にある。

これらの情報が、留学生誘致の際に使用されること、そしてこのような情報を広めることによって日本留学に関する費用の不透明性が改善されることを望む。

資料1：交換留学を除いた一人当たり GNI グループ別、日本留学を選んだ理由（複数回答可・制限なし）

経済発展度	日本にいる日本人の友達・家族がいるから	日本の学校は入学しやすいから	友達・家族が日本との関わりを持っていたから	学費が低い・奨学金の支給があるから	日本留学が自分のキャリアに役に立つから	日本文化に対する親しみを持っていたから	教育の質が高いから
上位 30 か国 N=115	18.3%	12.2%	18.3%	44.3%	41.7%	67.0%	21.7%
31 位から 60 位まで N=58	5.2%	8.6%	6.9%	43.1%	53.4%	58.6%	37.9%
61 位から 90 位まで N=503	3.2%	10.7%	21.5%	27.2%	47.7%	49.9%	54.3%
91 位から 120 位まで N=253	4.3%	10.3%	8.7%	39.9%	45.8%	47.4%	65.6%
121 位から 150 位まで N=118	7.6%	13.6%	17.8%	32.2%	50.8%	49.2%	65.3%
151 位以下 N=48	0.0%	2.1%	18.8%	27.1%	43.8%	33.3%	56.3%
合計（国籍不詳含む）	5.5%	10.7%	16.9%	33.4%	47.1%	50.8%	53.8%

資料 2：交換留学を除いた教育段階別、日本留学を選んだ理由（複数回答可・制限なし）

注：専門学校・研究生・日本語学校からの回答者が少ないため、数値データを使うには注意が必要。

教育段階	日本にいる・日本人の友達・家族がいるから	日本の学校は入学しやすいから	友達・家族が日本との関わりを持っていたから	学費が低い・奨学金の支給があるから	日本留学が自分のキャリアに役に立つから	日本文化に対する親しみを持っていたから	教育の質が高いから
学部 N=407	6.9%	9.6%	22.6%	34.6%	42.0%	51.6%	44.7%
修士 N=298	2.7%	11.7%	10.4%	37.2%	52.0%	53.0%	56.7%
博士 N=191	5.8%	11.5%	14.7%	29.8%	48.7%	36.1%	61.3%
日本語学校 N=96	7.3%	15.6%	21.9%	19.8%	39.6%	53.1%	55.2%
専門学校 N=37	5.4%	2.7%	13.5%	27.0%	35.1%	59.5%	51.4%
研究生 N=67	6.0%	7.5%	11.9%	41.8%	68.7%	68.7%	74.6%
合計	5.5%	10.7%	16.9%	33.4%	47.1%	50.7%	53.8%

資料3：交換留学を除いた一人当たり GNI グループ別、自國の人が日本に留学しない理由別回答率（4択まで）

経済発展度	日本の教育水準に対する懸念	厳しい選抜基準	文化・生活習慣に関する情報不足	日本ですでに留学している先輩・友達の不足	留学先として日本に対して無関心	日本という国に対して無関心・悪印象	文化の違い	卒業後にキャリアの道の不透明さ	個々のコース・大学の情報不足	申し込みに関して情報不足	高い費用	言葉の壁に対する心配
上位30か国 N=115	25.2%	4.3%	16.5%	23.5%	38.3%	20.9%	24.3%	34.8%	35.7%	36.5%	50.4%	65.2%
31位から60位まで N=58	12.1%	19.0%	13.8%	24.1%	29.3%	6.9%	37.9%	32.8%	31.0%	51.7%	74.1%	70.7%
61位から90位まで N=503	10.1%	12.7%	21.1%	17.9%	21.7%	38.4%	25.4%	30.8%	31.4%	38.0%	42.9%	43.5%
91位から120位まで N=253	18.6%	22.9%	13.8%	13.8%	20.2%	8.7%	29.6%	17.0%	30.0%	45.1%	68.8%	82.6%
121位から150位まで N=118	9.3%	16.1%	20.3%	22.9%	17.8%	9.3%	23.7%	20.3%	32.2%	42.4%	61.0%	61.0%
151位以下 N=48	6.3%	20.8%	12.5%	12.5%	12.5%	2.1%	12.5%	25.0%	41.7%	45.8%	70.8%	70.8%
合計（国籍不詳含む）	13.6%	15.3%	18.1%	18.2%	22.6%	23.3%	26.1%	26.8%	32.1%	41.0%	54.4%	59.4%

資料4：交換留学を除いた教育段階別、自國の人が日本に留学しない理由別回答率（4択まで）

注：専門学校・研究生・日本語学校からの回答者が少ないので、数値データを使うには注意が必要。

教育段階	日本の教育水準に対する懸念	厳しい選抜基準	文化・生活習慣に関する情報不足	日本すでに留学している先輩・友達の不足	留学先として日本に対して無関心	日本という国に対して無関心・悪印象	文化の違い	卒業後にキャリアの道の不透明さ	個々のコース・大学の情報不足	申し込みに関して情報不足	高い費用	言葉の壁に対する心配
学部 N=407	14.7%	14.7%	20.9%	18.4%	27.3%	28.0%	29.2%	31.2%	29.7%	37.3%	53.6%	53.8%
修士 N=298	14.1%	13.1%	14.8%	17.4%	21.1%	22.5%	26.2%	25.2%	33.6%	44.6%	53.4%	64.1%
博士 N=191	15.7%	12.6%	14.1%	13.6%	17.3%	12.6%	23.0%	21.5%	31.4%	41.4%	60.2%	72.8%
日本語学校 N=96	7.3%	17.7%	22.9%	21.9%	25.0%	33.3%	19.8%	17.7%	34.4%	37.5%	45.8%	38.5%
専門学校 N=37	2.7%	21.6%	18.9%	21.6%	27.0%	18.9%	27.0%	35.1%	24.3%	40.5%	54.1%	51.4%
研究生 N=67	13.4%	28.4%	19.4%	25.4%	10.4%	16.4%	25.4%	31.3%	43.3%	50.7%	61.2%	68.7%
合計	13.6%	15.2%	18.1%	18.2%	22.6%	23.3%	26.2%	26.8%	32.1%	41.0%	54.5%	59.4%

来日後

本章に、留学生が来日した後に関する話題について議論する。例えば、来日後の日本留学に対する評価や直面した問題に触れる。

トピック 5：日本留学に対する評価

図 14 に回答者の日本留学に対する評価を示す。

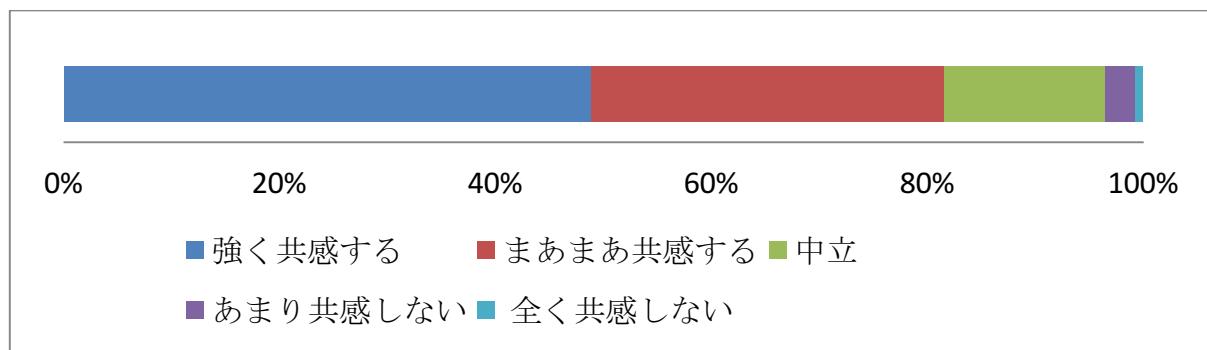


図 14：「『日本に来てよかったです』という文に、どのくらい共感しますか？」(N=1376)

見てのとおり、半数以上の回答者が「強く共感する」と答えた。「強く共感する」と「共感する」を合わせると 8 割を超える一方、「あまり共感しない」と「全く共感しない」を合わせても 1 割満たないという結果になった。ちなみに、来日年数・教育段階別で分けたが、顕著な傾向は現れなかった。

日本留学がプラスに評価されている結果であるため、この目覚ましい回答は日本留学の広報に利用できると考える。

また、日本留学をどの点で評価したかを図 15 で示す。

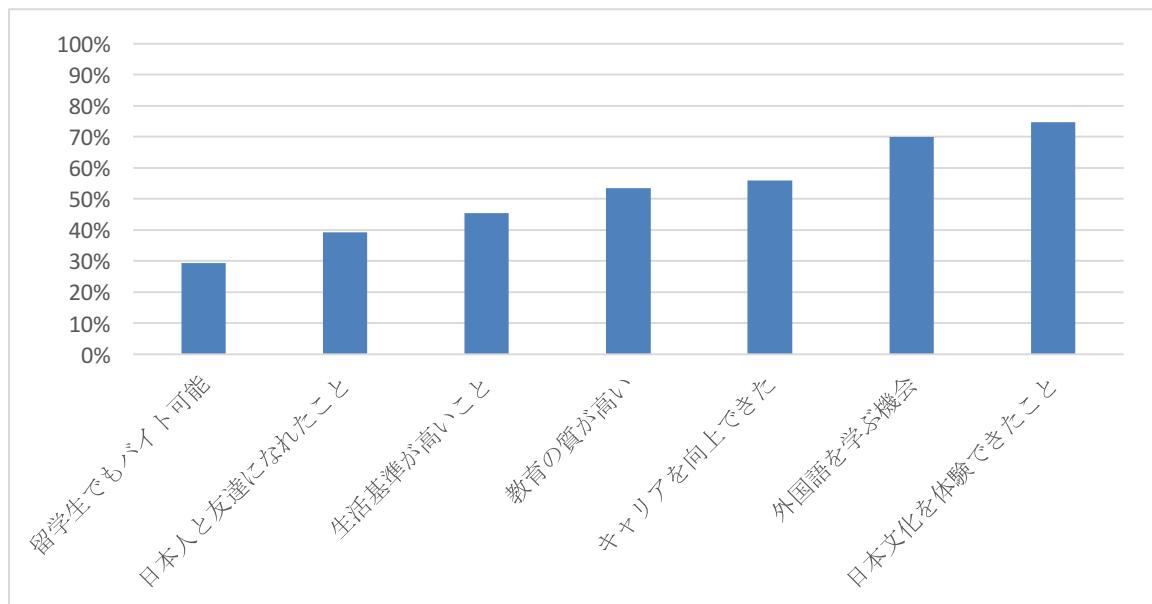


図 15：「あなたにとって、日本に来てよかったですと思う点はどれですか？」（選択肢無制限・N=1376）

図 15 のとおり、多くの回答者が文化の面と外国語を学ぶ機会を評価している。教育の質とキャリア向上に関しても半数を超えており、これを多いとみなすか少ないとみなすかの賛否は分かれるだろう。また、「日本人と友達になれた」と答えた人は 40% 近くで半数を下回るが、この点は日本人と留学生の関わり方はあとの項目で議論する。

また、資料 5 に教育段階別の、資料 6 には来日年数そして資料 7 には交換留学であるかで分けた日本留学を評価する理由の回答率を示す。それそれでいくつかのポイントを以下に述べる：

- ・教育段階：学部生はバイトができること、日本人と友達になれること、そして外国語を学ぶ機会を理由として挙げる傾向にある。一方、大学院生が教育の質を挙げる傾向が強い。
- ・来日年数：時間が経過するにつれて、留学生でありながらアルバイトができるなどを評価する比率が高くなる。それ以外は明瞭な傾向が見えなかった。
- ・交換留学：10%以上の差があったのは 2 項目。交換留学生は日本文化を体験できることを多く挙げることに対して、交換留学生ではない回答者が教育の質を理由として挙げる傾向がある。

トピック 6：手続きのサポートは重要課題

図 16 に日本に来てから直面した問題を交換留学生と非交換留学生で分けて示す。また、資料 8 に日本語レベル別の直面した問題、資料 9 に教育段階別の直面した問題、そして資料 10 に出身地域別の直面した問題を示す。

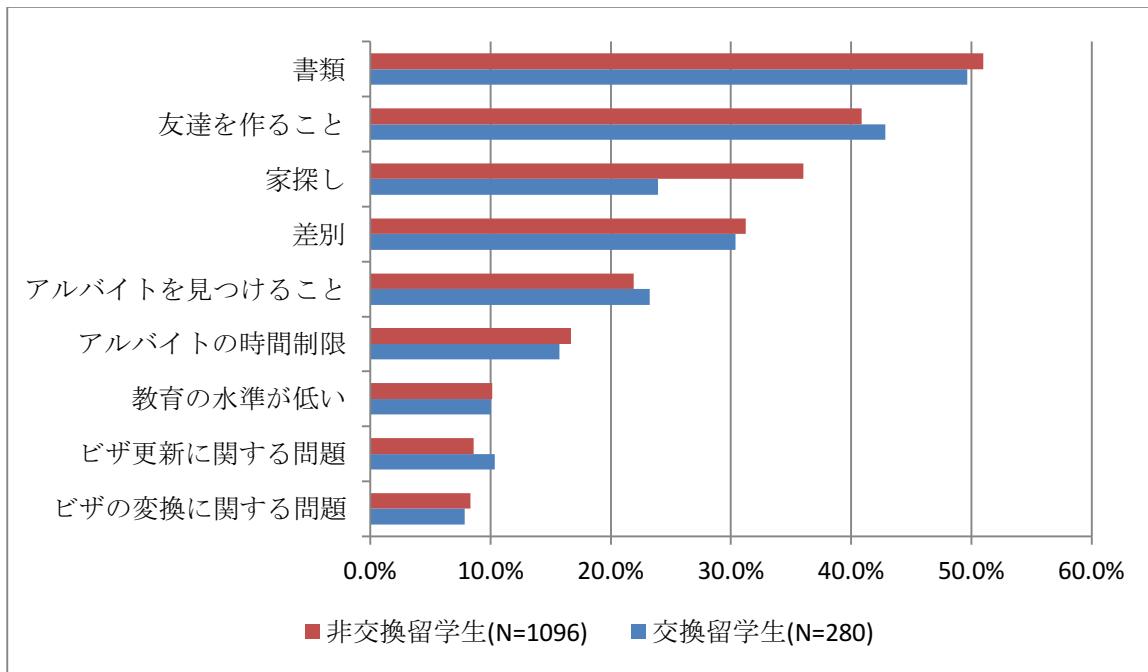


図 16：「次の項目の中に、困ったと感じた項目はどれですか？」 交換留学生であるかによって分類（選択肢無制限・N=1376）

ご覧のとおり、「書類」で困っていた人が最も多く、これは交換留学生と非交換留学生でたいした差が見られない。余談であるが、「教育の水準が低い」と答えたのは 15% 前後であり、学部生と欧米から来ている人の方が若干高くなるが、全体的にその答えを挙げた人が少ない。

話題を戻し、書類について議論する。資料 8 で見られるように、「書類」と答えた比率が日本語能力に大きく比例する。来た当初にネイティブ並みまたは上級の日本語力を持っている人の中の 4 割弱しかこの選択肢を選ばなかったにも関わらず、日本語レベルが初級あるいはゼロに近い程度で来日する人の 3 分の 2 が書類に関する問題に直面している。

つまり、日本語のみの書類に直面すると困ってしまう外国人が多い。ただし、日本語が上級以上の人でも、書類で困った人が 3 分の 1 であり、つまり言語レベル関係なく困ったりする書類の存在もうかがえる。ASEAN 各国の代表との議論で、浮かんできた例を表 8 に羅列する。

日本語がわからぬと困る書類・手続き	日本語がわかったとしても困る書類・手続き
<ul style="list-style-type: none">・銀行の申し込み・携帯電話の申し込み・ごみの分別・公共料金支払い（光熱費など）	<ul style="list-style-type: none">・外国人の送金制限・ビザの期限による携帯電話契約・機種替えの制限・引っ越しの選択肢減少・保証人（電話・住まいにおいて）

	<ul style="list-style-type: none"> ・国民保健、特に年金に関する手続き（情報が日本語でも届いていない） ・煩雑な学校申し込み手続き
--	--

これを解決するために幾つかの対策を考える。英訳を含めた多言語での書類サポート及び学内のチューター制度・寮でのレジデンシャル・アドバイザー(RA)システムの導入が望ましい。ただし、日本語がわかったとしても直面する問題に関しては制度的な改革が必要である。外国人に対して設けてある制限の撤廃や保証人の代替制度などの構築が望ましい。

また、3番目に多かったのは家探しという答えだった。これは特に交換留学生ではない人には当てはまる。ビザの期限によって2年契約ができなかつたり、シェアハウスに入らなくてはならなかったり、または外国人であるゆえ物件の賃貸を拒否されたり、賃貸が決まる際に連帯保証人を見つけるのが難しかったり、多くの困難に直面している現状がある。

それを解決するためにはいくつかの対策を考える。その対策を以下に記す。

- 寮の増設

これは最適な解決案だと思われる。ただし、寮を単に建設するのではなく、間取りなどを考慮しないといけない。例えば、交流を促進するために、個別キッチンを設置せずに共同キッチンを提供することなどが望ましい²。また、それも建設コスト・最終的な家賃を抑える効果を持つので一石二鳥だと思われる。

- シェアハウスとタイアップし、留学生の斡旋を行う

寮の建設が望ましいが、短期的な実現が難しかった場合、料金の引き下げ・特典などの代わりに、大学がシェアハウスとタイアップをし、留学生の斡旋もできたら現状の改善に繋がると思われる。

- 一般物件の共同シェアを可能にする仕組みの開発

また、一般物件を数人でのシェアができるような仕組みの開発も別の解決策として考えられる。例えば、外国人と日本人がプロフィールを載せ、お互いを繋げてそして3DKなどの物件を共同に借りるという仕組みも問題解決・緩和に繋がると思われる。

² この点に関する議論は次節に深める。

トピック 7：日本人との関わりを創ることに欠けているのは「日常的なふれあい」

図 15、図 16 に振り返ってみると、2 番目に挙がった問題は「友達を作ること」だった。友達を作る困難が長期化することにより、最終的に日本に対する印象を悪化させる大きな原因になる可能性がある。表 8 に直面した問題項目別で「日本来てよかったです」に対する賛成を聞いた質問で「非常に共感する」あるいは「まあまあ共感する」と答えた割合を示す。

表 7：来日後の困難各項目に直面した有無別、「日本に来てよかったです」に「非常に共感」あるいは「まあまあ共感」と答えた比率

右の項目に直面したか？	ビザ更新に関する問題	ビザの変換に関する問題	教育の質が低い	アルバイトの時間制限	パートを見つけること	差別	家探し	友達を作ること	書類
はい(A)	82.2%	84.2%	64.0%	81.5%	81.0%	71.0%	80.7%	74.8%	83.0%
いいえ(B)	81.6%	81.2%	83.4%	81.5%	81.8%	86.3%	81.9%	86.6%	80.2%
差(B)-(A)	-0.7%	-3.0%	19.4%	0.1%	0.8%	15.3%	1.2%	11.8%	-2.7%

上記で見られるように、教育の質に関する困難は日本留学に対する評価を最も下げる。しかし、それ以外に差別と友達作りがに関する問題が日本留学に対する評価を引き下げている。

では、この「友達を作ることに困った」ことの原因はどこにあるのか？表 9 と表 10 に日本語能力別、そして教育段階別「友達を作ること」に困ったと答えた比率を示す。

表 8：来日時・現在の日本語能力レベル別の「友達を作ることに困った」と答えた割合

(注：「来日当初、ネイティブに近い」は 20 人、「現在・ゼロ・ゼロに近い」は 23 人という小さい集団だということに要注意)

右：日本語レベル 下：時期	ゼロ・ゼロに近い	初級	中級	上級	ネイティブに近い
来日当初	38.2%	42.5%	47.9%	47.0%	45.0%
現在	39.1%	37.6%	41.4%	48.5%	40.3%

表 9：教育段階別、「友達を作ることに困った」と答えた割合（一部抜粋）

学部	修士	博士
47.58%	39.47%	34.55%

ここから、いくつかの考察をしたい。まず、表 9 で見られるように、来日当初の日本語能力においても現在の日本語能力においても友達作りに困ることに対してはっきりとした影響が見られない。つまり、留学生が友達作りにおいて、言語の隔たりが大きい障害になっている証拠が本調査では見られなかった。また、教育段階別の方の分析を見ると、学部生が友達作りに困ったと答えた比率が他グループを上回る。

これは果たしてどういうことを意味しているのかについて、ASEAN 各国の代表と議論を行った結果として「日常的に日本人と関わる機会を持つか」という共通意見が得られた。つまり、学部生の多くが大人数の授業を取り、授業で人と知り合う機会が限られている一方、大学院生は研究室などに属し、研究室の同僚と深い関係を作る機会を持つ。また、同じ話題に興味・関心を持つが身の回りにいる可能性が高いという点で、似たもの同士の繋がりもできることが 1 つのポイントなのかもしれない。

では、この「日常的な繋がり・関わり」をいかにして増やすかというと、次の対策が考えられる。

- 寮づくりの注意点

前節でも触れたが、ほとんどの人が使わないといけない共同スペースを設けることは交流を促す大きな役割を果たす。既存の大学寮で参考になる寮は例え、一橋の小平寮（外国人学生・日本人学生混合、基本的にシェアハウス型・单身室だがキッチンは共用）と国際基督教大学の寮（外国人学生・日本人学生混合、基本的に二 2 人部屋・一部シェアハウス型）が挙げられた。

- 授業

授業における留学生と日本人の間の交流を深めるためには少人数の授業（特に学部レベルでは急務）が望ましい。また、それ以外にも、例え語学の授業においてネイティブである留学生を TA として呼び込み学習補助をしてもらうことで交流を深めることが考えられる。

- 部活・サークル

また、部活とサークルは交流を促進する大きな仕組みになりうる。参加するかどうかは個人の自由であるが、大学が多言語におけるサークル紹介のブックレットを作るなどすることで、これを推進できる。

ASEAN 各国の代表との議論の要点は「日常的な関わり」に専念していることを改めて強調したい。各国代表の議論を通じて、共通意見として「月一回のパーティーの効果は限られている」ということだった。このような場ではなく、普段の関わりをいかにして増やすかが問題だと思われる。

トピック 4：留学生の卒業プランに関して

最近、留学生の日本就職希望率に関する議論が盛んになっているため、本調査では回答者に対して、日本に来た当初と現在の卒業後の希望を聞く質問を設けた。図 17 に、現役非交換留学生に絞った、当初回答者が思い描いた卒業後のプランと現在の卒業後のプランを示す。また、資料 11 と資料 12 と資料 13 に、来日年数別の、一人当たり GNI で計算した国経済発展度、別そして教育段階別の卒業後の希望を記す。

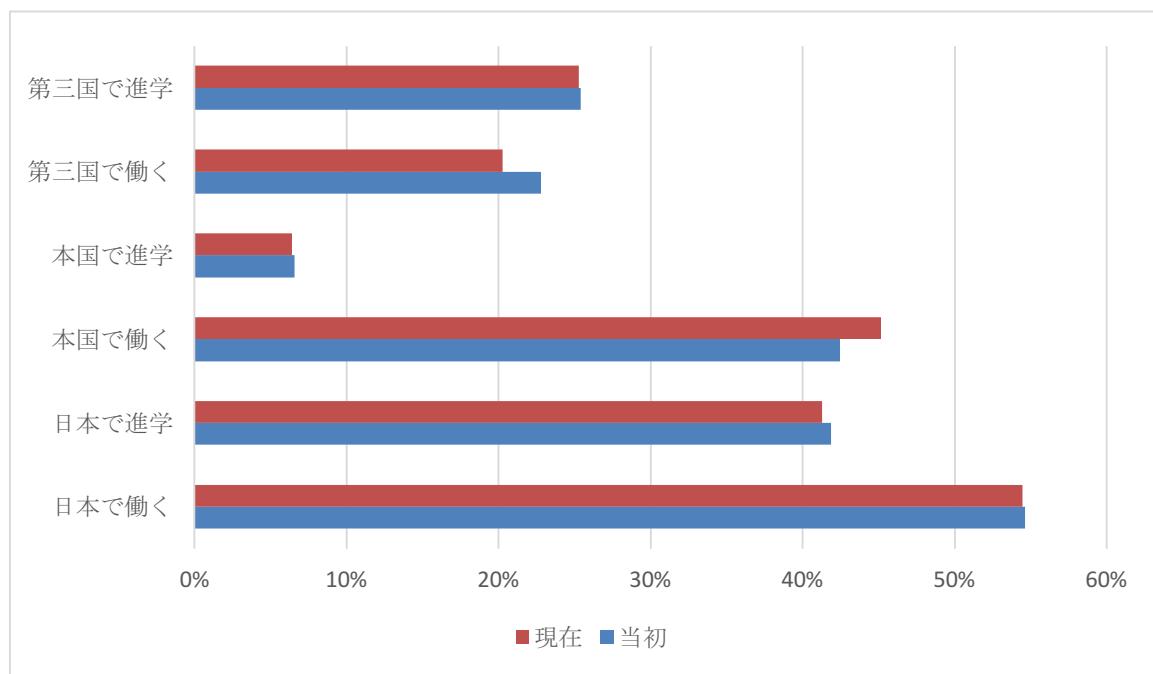


図 17：現役非交換留学生限定、来日当初・現在別卒業後プラン（選択肢無制限・N=1032）

見てのとおり、来日当初の考え方に関する回答と今の回答の間で大差は見られなかった。また、資料 11 でも確認できるように、日本での滞在年数が増えれば「日本で進学」と「国に戻って働く」の回答率が減り、「日本で働く」ことの回答率が増える。つまり、日本で住む期間で日本の労働環境に対する危惧が高まり、日本での就職を避けるということは本調査からは見られなかった。

また、意外かもしれないが、資料 12 で見られるように、先進国の回答者の方が最初から日本で働くことについて興味を表し、来日後でもこの傾向性が続く。また、資料 13 で見られるように、全体を通して学部の日本での就職希望率が高く、教育段階が高ければ高いほど日本で就職する意欲が減る。

ここで注意を喚起したいのは、留学生の低い就職率ではなく、「留学生の日本就職」と「日本での就職希望率」を比べ、その差に注目し、留学生の日本就職を阻む要因を指摘したい。

また、本調査では現役非交換学部留学生の 55% が日本で就職したいという結果が出た。その場合、この 55% と現在の就職する比率の差ではなく、残りの 45% はなぜ日本就職を希望しないのかから始めたい。この 45% は日本企業に対するイメージが悪い、母国へ帰国する

など日本で働くことを最初から選択肢の中に入れていないことが考えられる。また、この55%に関しても、55%が日本就職を第一の選択肢に据えているのではなく、進学・帰国などを含めていくつかの選択肢の中の1つに過ぎないことに注意しなければならない。具体的には、本調査において、「日本で働く」ことを選んだ人の中に40%が日本で進学を考えている、37%が帰国して働くことを考えている。ここで重要なのは、日本で就職することの絶対的な（あるいは単独的な）魅力や困難ではなく、他の選択肢と比べて相対的なものであることに十分注意しなければならない。

資料 5：教育段階別、日本留学を評価する理由（複数回答可・制限なし・交換留学生除く）

注：専門学校・研究生・日本語学校からの回答者が少ないため、数値データを使うには注意が必要。

教育段階	留学生でいながらもバイトもできたこと	日本人と友達になれたこと	生活基準が高いこと	教育の質が高いこと	自分のキャリアを向上させられたこと	外国語を学ぶ機会	日本文化を体験できたこと
学部 N=407	34.4%	40.5%	46.4%	45.9%	55.5%	72.5%	71.7%
修士 N=298	25.5%	37.6%	46.3%	57.4%	60.1%	73.2%	78.9%
博士 N=191	20.4%	35.1%	49.7%	64.4%	56.0%	58.1%	71.7%
日本語学校 N=96	30.2%	29.2%	32.3%	46.9%	50.0%	66.7%	66.7%
専門学校 N=37	24.3%	32.4%	51.4%	43.2%	43.2%	67.6%	70.3%
研究生 N=67	26.9%	47.8%	37.3%	71.6%	61.2%	77.6%	85.1%
合計	28.6%	38.2%	45.3%	53.4%	56.3%	69.9%	74.1%

資料6：来日年数別、日本留学を評価する理由（複数回答可・制限なし）

来日年数	留学生でいながらもバイトもできたこと	日本人と友達になれたこと	生活基準が高いこと	教育の質が高いこと	自分のキャリアを向上させられたこと	外国語を学ぶ機会	日本文化を体験できたこと
1年間未満 (N=365)	25.2%	50.7%	42.5%	60.5%	57.3%	78.1%	82.7%
1年間以上・2年間未満 (N=349)	24.4%	35.0%	40.7%	54.7%	55.6%	70.5%	74.2%
2年間以上・3年間未満 (N=215)	27.0%	34.4%	47.4%	50.2%	49.8%	62.8%	70.2%
3年間以上・4年間未満 (N=186)	32.8%	34.4%	49.5%	45.7%	53.8%	63.4%	67.7%
4年間以上・5年間未満 (N=106)	34.9%	34.9%	46.2%	52.8%	63.2%	68.9%	77.4%
5年間以上 (N=155)	45.8%	38.7%	54.8%	49.0%	60.0%	68.4%	71.0%
合計	29.4%	39.4%	45.4%	53.6%	56.0%	70.0%	74.9%

資料7：交換留学であるかで分別した、日本留学を評価する理由（複数回答可・制限なし）

交換留学か	留学生でいながらもバイトもできたこと	日本人と友達になれたこと	生活基準が高いこと	教育の質が高いこと	自分のキャリアを向上させられたこと	外国語を学ぶ機会	日本文化を体験できたこと
交換留学ではない (N=686)	29.2%	37.0%	45.9%	55.4%	56.8%	69.6%	72.4%
交換留学 (N=200)	30.0%	48.9%	43.6%	46.4%	52.5%	71.4%	84.3%
合計	29.4%	39.4%	45.4%	53.6%	56.0%	70.0%	74.9%

資料8：言語能力別、来日後直面した問題（複数回答可・制限なし）

注：当初にネイティブレベルの日本語、そして現在ゼロ・ゼロに近い日本語レベルを持っているグループの母数が少なく、数値データを使うには注意が必要。

日本語能力	就労ビサへの変換など、ビサの変換に関する問題	ビサ更新に関する問題	教育の質が低い	アルバイトの時間制限	バイトを見つけること	差別	家探し	友達を作ること	書類（電話・国民保健の申請など）
来日した当初の日本語能力									
ネイティブに近い (N=20)	5.0%	10.0%	15.0%	10.0%	20.0%	30.0%	25.0%	45.0%	30.0%
上級 (N=164)	6.1%	15.9%	12.2%	23.2%	19.5%	35.4%	35.4%	47.0%	36.6%
中級 (N=303)	9.2%	12.2%	8.9%	18.5%	20.5%	36.0%	35.3%	47.9%	40.6%
初級 (N=391)	9.0%	11.5%	12.5%	16.4%	23.5%	31.5%	37.6%	42.5%	55.0%
ゼロ・ゼロに近い (N=492)	7.9%	6.3%	7.1%	15.4%	23.8%	27.2%	28.9%	38.2%	56.3%

現在の日本語能力									
	就労ビサへの変換など、ビサの変換に関する問題	ビサ更新に関する問題	教育の質が低い	アルバイトの時間制限	バイトを見つけること	差別	家探し	友達を作ること	書類（電話・国民保健の申請など）
ネイティブに近い (N=154)	13.0%	16.2%	13.6%	25.3%	13.6%	38.3%	41.6%	42.2%	42.2%
上級 (N=534)	9.2%	14.0%	8.6%	22.5%	11.0%	40.1%	35.4%	40.8%	36.5%
中級 (N=365)	6.3%	7.1%	9.9%	13.2%	27.7%	29.9%	31.2%	34.0%	57.3%
初級 (N=271)	6.6%	4.4%	10.0%	8.5%	36.2%	15.5%	28.8%	29.9%	69.0%
ゼロ・ゼロに近い (N=23)	0.0%	0.0%	13.0%	4.3%	91.3%	13.0%	13.0%	17.4%	69.6%

資料9：教育段階別、来日後直面した問題（複数回答可・制限なし・交換留学除く）

注：専門学校・研究生・日本語学校からの回答者が少ないため、数値データを使うには注意が必要。

教育段階	就労ビサへの 変換など、ビ サの変換に關 する問題	ビサ更新に關 する問題	教育の質が低 い	アルバイトの 時間制限	バイトを見つ けること	差別	家探し	友達を作ること	書類（電話・ 国民保健の申 請など）
学部 N=407	8.6%	11.8%	12.3%	18.9%	18.9%	37.1%	31.2%	47.4%	43.5%
修士 N=298	7.7%	9.1%	9.7%	16.1%	25.2%	30.5%	35.6%	39.3%	52.3%
博士 N=191	3.7%	7.3%	11.5%	11.5%	25.7%	26.2%	36.1%	34.6%	61.8%
日本語学校 N=96	11.5%	17.7%	4.2%	24.0%	22.9%	24.0%	35.4%	38.5%	41.7%
専門学校 N=37	16.2%	10.8%	2.7%	29.7%	13.5%	37.8%	29.7%	45.9%	43.2%
研究生 N=67	11.9%	9.0%	3.0%	17.9%	23.9%	25.4%	38.8%	58.2%	56.7%

資料 10：二重国籍・国籍不詳・無回答を除いた出身地域別、来日後直面した問題（複数回答可・制限なし）

注：南アジアとテンアメリカ・カリブ地方のグループの母数が少なく、数値データを使うには注意が必要。

出身地域	就労ビサへの変換など、ビサの変換に関する問題	ビサ更新に関する問題	教育の質が低い	アルバイトの時間制限	バイトを見つけること	差別	家探し	友達を作ること	書類（電話・国民保健の申請など）
東南アジア (N=564)	7.8%	6.4%	10.1%	14.5%	29.3%	25.0%	34.0%	40.6%	62.8%
欧・北米・豪・ニュージーランド (N=120)	6.7%	3.3%	27.5%	8.3%	12.5%	33.3%	22.5%	45.0%	64.2%
東アジア (N=577)	9.7%	16.8%	4.0%	22.7%	16.6%	39.3%	35.9%	44.9%	32.8%
南アジア (N=36)	5.6%	2.8%	11.1%	11.1%	30.6%	19.4%	30.6%	44.4%	55.6%
ラテンアメリカ・カリブ (N=32)	6.3%	6.3%	18.8%	12.5%	6.3%	25.0%	31.3%	46.9%	65.6%
その他 (N=43)	2.3%	9.3%	18.6%	14.0%	41.9%	14.0%	34.9%	32.6%	46.5%

資料 11：現役非交換留学生のみ、卒業後の希望（複数回答可・制限なし）

来日当初か現在か	来日年数	日本で働く	日本で進学	母国に戻って働く	母国に戻って進学	第三国に行って働く	第三国に行って進学
来日当初 (N=1013)	-	53.7%	45.0%	45.4%	6.6%	21.6%	24.5%
現在	1年間未満 (N=225)	47.6%	47.6%	48.9%	8.0%	27.1%	30.2%
	1年間以上・2年間未満 (N=260)	50.0%	46.2%	48.1%	7.3%	21.5%	33.1%
	2年間以上・3年間未満 (N=171)	53.2%	36.3%	39.2%	5.8%	18.7%	22.2%
	3年間以上・4年間未満 (N=147)	57.8%	37.4%	40.1%	6.8%	26.5%	30.6%
	4年間以上・5年間未満 (N=79)	64.6%	20.3%	34.2%	8.9%	21.5%	15.2%
	5年間以上 (N=131)	71.8%	23.7%	33.6%	0.8%	13.7%	15.3%

資料 12：現役非交換留学生のみ、出身国経済発展度別、当初・現在別、

卒業後のプラン各項目（複数回答可・制限なし）

経済発展度	来日当初					
	日本で働く	日本で進学	母国に戻って働く	母国に戻って進学	第三国に行って働く	第三国に行って進学
上位 30 か国 N=100	67.0%	31.0%	41.0%	15.0%	26.0%	20.0%
31 位から 60 位まで N=46	65.2%	65.2%	41.3%	15.2%	37.0%	39.1%
61 位から 90 位まで N=481	59.5%	36.8%	39.3%	4.2%	18.1%	23.5%
91 位から 120 位まで N=236	44.5%	48.7%	59.3%	5.5%	23.3%	32.2%
121 位から 150 位まで N=103	42.7%	49.5%	40.8%	2.9%	11.7%	18.4%
151 位以下 N=46	34.8%	39.1%	63.0%	13.0%	26.1%	23.9%
現在						
経済発展度	日本で働く	日本で進学	母国に戻って働く	母国に戻って進学	第三国に行って働く	第三国に行って進学
上位 30 か国 N=100	65.0%	34.0%	43.0%	13.0%	28.0%	23.0%
31 位から 60 位まで N=46	56.5%	56.5%	34.8%	13.0%	23.9%	30.4%
61 位から 90 位まで N=481	59.3%	37.0%	37.6%	4.8%	19.1%	24.1%
91 位から 120 位まで N=236	43.6%	41.5%	57.2%	4.2%	25.0%	35.2%
121 位から 150 位まで N=103	59.2%	38.8%	27.2%	2.9%	20.4%	20.4%
151 位以下 N=46	39.1%	32.6%	60.9%	19.6%	26.1%	23.9%

資料 13：現役非交換留学生のみ、教育段階別、当初・現在別、
卒業後のプラン各項目（複数回答可・制限なし）

教育段階	来日当初					
	日本で働く	日本で進学	母国に戻って働く	母国に戻って進学	第三国に行って働く	第三国に行って進学
学部(N=382)	62.3%	46.1%	32.5%	5.5%	17.5%	29.3%
修士(N=271)	51.7%	44.6%	50.6%	5.9%	23.6%	22.1%
博士(N=178)	38.8%	25.3%	69.7%	6.7%	29.8%	20.8%
日本語学校(N=86)	47.7%	67.4%	38.4%	8.1%	18.6%	20.9%
専門学校(N=35)	57.1%	54.3%	20.0%	5.7%	8.6%	28.6%
研究生(N=61)	59.0%	60.7%	57.4%	14.8%	26.2%	18.0%
現在						
教育段階	日本で働く	日本で進学	母国に戻って働く	母国に戻って進学	第三国に行って働く	第三国に行って進学
学部(N=382)	61.5%	41.9%	28.3%	5.2%	17.3%	35.3%
修士(N=271)	53.5%	36.2%	51.7%	4.1%	22.5%	20.7%
博士(N=178)	47.8%	19.7%	61.8%	8.4%	36.5%	18.5%
日本語学校(N=86)	45.3%	55.8%	34.9%	11.6%	15.1%	20.9%
専門学校(N=35)	57.1%	42.9%	17.1%	2.9%	8.6%	28.6%
研究生(N=61)	55.7%	57.4%	62.3%	13.1%	24.6%	27.9%

付録

1. 国籍別回答者・経済発展度算出方法・タグされた地域

各国の経済発展度は世界銀行が提供している一人当たり国民総所得（PPP）から引用³した。基本的にデータは2014年のものであるが一部は2013年のものである。データがないミャンマーとアルゼンチンは他の指標（一人当たり国民総生産・一人当たり国民所得（アトラス方法）などを使い予測した。また、台湾のデータは別の情報源から取得した⁴。よって、台湾は「上位30か国」グループ、アルゼンチンは「31位～60位」、ミャンマーは「151位以下」とタグづけた。

従って、国籍と付与されたタグの一覧は下記に示す。また、二重国籍の場合、経済発展度が高い方の国のグループとしてタグする。地域に関して、その二重国籍が同じ地域に入る場合は、そのままの地域のタグをつける。国籍が異なる2つの国籍の場合、「二重・不詳」というタグをつける。

国名	回答数	経済発展度	地域
「Dual Citizen」	1	不詳	不詳・二重
アイランド	2	上位30か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
アゼルバイジャン	1	61位～90位	欧・北米・豪・ニュージーランド
アフガニスタン	1	150位～	その他
アメリカ	14	上位30か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
アルゼンチン	3	31位～60位	ラテンアメリカ・カリブ
イエメン	1	121位～150位	その他
イギリス	8	上位30か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
イスラエル	1	31位～60位	その他
イタリア	14	上位30か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
イラン	4	61位～90位	その他
インド	20	121位～150位	南アジア
インドネシア	260	91位～120位	東南アジア
ウガンダ	1	150位～	その他
ウクライナ	1	91位～120位	欧・北米・豪・ニュージーランド
ウズベキスタン	6	121位～150位	その他
エジプト	2	91位～120位	その他
エストニア	1	31位～60位	欧・北米・豪・ニュージーランド
オーストラリア	3	上位30か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
オーストリア	1	上位30か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
オランダ	3	上位30か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
ガーナ	1	121位～150位	その他
カザフスタン	3	31位～60位	その他
カナダ	6	上位30か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
カナダ・フランス	1	上位30か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
カンボジア	6	121位～150位	東南アジア
クロアチア	1	31位～60位	欧・北米・豪・ニュージーランド
コスタリカ	2	61位～90位	ラテンアメリカ・カリブ
コロンビア	3	61位～90位	ラテンアメリカ・カリブ
シェラレオネ	3	150位～	その他

³本来のデータは <http://databank.worldbank.org/data/download/GNIPC.pdf> で参照可能

⁴情報源は [http://www.indexmundi.com/taiwan/gdp_per_capita_\(ppp\).html](http://www.indexmundi.com/taiwan/gdp_per_capita_(ppp).html)

ジョージア	1	91位～120位	欧・北米・豪・ニュージーランド
シリア	3	121位～150位	その他
シンガポール	37	上位 30 か国	東南アジア
スイス	2	上位 30 か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
スウェーデン	5	上位 30 か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
スペイン	1	31位～60位	欧・北米・豪・ニュージーランド
スリランカ	1	91位～120位	南アジア
セルビア	1	61位～90位	欧・北米・豪・ニュージーランド
タイ	49	61位～90位	東南アジア
タンザニア	1	150位～	その他
チェコ	4	31位～60位	欧・北米・豪・ニュージーランド
チュニジア	1	91位～120位	その他
チリ	1	31位～60位	ラテンアメリカ・カリブ
デンマーク	1	上位 30 か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
ドイツ	9	上位 30 か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
トリニダード・トバゴ	1	31位～60位	ラテンアメリカ・カリブ
トルコ	5	31位～60位	その他
ニュージーランド	3	31位～60位	欧・北米・豪・ニュージーランド
ネパール	8	150位～	南アジア
ノルウェー	4	上位 30 か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
パキスタン	1	121位～150位	南アジア
パラグアイ	1	91位～120位	ラテンアメリカ・カリブ
バングラデシュ	6	121位～150位	南アジア
フィリピン	30	91位～120位	東南アジア
フィンランド	1	上位 30 か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
ブラジル	15	61位～90位	ラテンアメリカ・カリブ
フランス	14	上位 30 か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
フランス・セネガル	1	上位 30 か国	不詳・二重
ブルガリア	2	61位～90位	欧・北米・豪・ニュージーランド
ベトナム	102	121位～150位	東南アジア
ベラルーシ	1	61位～90位	欧・北米・豪・ニュージーランド
ペルー	3	61位～90位	ラテンアメリカ・カリブ
ベルギー	2	上位 30 か国	欧・北米・豪・ニュージーランド
ポーランド	2	31位～60位	欧・北米・豪・ニュージーランド
ポルトガル	1	31位～60位	欧・北米・豪・ニュージーランド
ホンジュラス	1	121位～150位	ラテンアメリカ・カリブ
マカオ	1	上位 30 か国	東アジア
マレーシア	32	31位～60位	東南アジア
ミャンマー	46	150位～	東南アジア
メキシコ	3	61位～90位	ラテンアメリカ・カリブ
モザンビーク	1	150位～	その他
モロッコ	1	91位～120位	その他
モンゴリア	6	91位～120位	その他
ラオス	2	121位～150位	東南アジア
ルーマニア	1	61位～90位	欧・北米・豪・ニュージーランド
レバノン	1	61位～90位	その他
ロシア	9	31位～60位	欧・北米・豪・ニュージーランド
中国	516	61位～90位	東アジア
台湾	12	上位 30 か国	東アジア
日本・オランダ	1	上位 30 か国	不詳・二重
日本・香港	1	上位 30 か国	東アジア
韓国	40	31位～60位	東アジア

2. 調査質問及び結果一覧

質問票を反映するため英語の質問文も選択肢も入れる。自由回答・自由回答の質問は除く。質問文・選択肢に誤字があった場合「(ママ)」をつける。

Please tell us your sex. あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答率	回答数
Male / 男性	45.7%	629
Female / 女性	53.7%	739
Prefer not to say / 答えたくない	0.6%	8

What type of education are you receiving? あなたの受けている教育のタイプを教えてください。

選択肢	回答率	回答数
Professional / Technical Education 専門学校	3.6%	50
Language Education 日本語学校	9.1%	125
Undergraduate 学部	37.6%	517
Research Student 研究生	6.5%	89
Masters Student 修士	27.3%	375
PHD Student 博士	16.0%	220

In which prefecture do / did you live? あなたが住んでいる・住んでいた都道府県を教えてください。 (Choices are from north to south, east to west
都道府県が来たから南、西から東の順で並んでいます)

選択肢	回答率	回答数
Hokkaido 北海道	1.7%	24
Aomori 青森県	0.0%	0
Iwate 岩手県	0.6%	8
Miyagi 宮城県	2.6%	36
Akita 秋田県	0.1%	2
Yamagata 山形県	0.1%	2
Fukushima 福島県	0.1%	2
Ibaraki 茨城県	3.1%	43
Tochigi 栃木県	0.0%	0
Gunma 群馬県	0.3%	4
Saitama 埼玉県	3.3%	45
Chiba 千葉県	5.8%	80
Tokyo 東京都	57.3%	789
Kanagawa 神奈川県	8.1%	111
Niigata 新潟県	0.4%	6
Toyama 富山県	0.9%	12
Ishikawa 石川県	0.2%	3
Fukui 福井県	0.2%	3
Yamanashi 山梨県	0.4%	6
Nagano 長野県	0.3%	4
Gifu 岐阜県	0.8%	11
Shizuoka 静岡県	0.1%	1
Aichi 愛知県	0.6%	8
Mie 三重県	0.6%	8
Shiga 滋賀県	0.1%	2
Kyoto 京都府	2.0%	27
Osaka 大阪府	4.1%	57
Hyogo 兵庫県	0.7%	9
Nara 奈良県	0.4%	5
Wakayama 和歌山県	0.0%	0
Tottori 鳥取県	0.0%	0

Shimane 島根県	0.1%	1
Okayama 岡山県	0.5%	7
Hiroshima 広島県	0.2%	3
Yamaguchi 山口県	0.1%	1
Tokushima 徳島県	0.0%	0
Kagawa 香川県	0.1%	2
Ehime 愛媛県	0.1%	1
Kochi 高知県	0.1%	1
Fukuoka 福岡県	1.2%	17
Saga 佐賀県	0.0%	0
Nagasaki 長崎県	0.2%	3
Kumamoto 熊本県	0.7%	10
Oita 大分県	0.5%	7
Miyazaki 宮崎県	0.7%	10
Kagoshima 鹿児島県	0.1%	2
Okinawa 沖縄県	0.2%	3

Are you currently studying in Japan right now? あなたは現在、日本に留学していますか？

選択肢	回答率	回答数
Yes (please select this even if you are enrolled in a Japanese school but are currently on an exchange program abroad). はい（日本の大学に所属し、現在海外で交換留学をしている人もこちらを選んでください）	90.8%	1249
No いいえ	9.2%	127

How long have you studied / have you been studying in Japan? 今まで、日本でどのぐらい勉強してきましたか？		
選択肢	回答率	回答数
Less than 1 year / 一年以下	26.5%	365
From 1 to 2 years / 1年以上 2年以下	25.4%	349
From 2 to 3 years / 2年以上 3年以下	15.6%	215
From 3 to 4 years / 3年以上 4年以下	13.5%	186
From 4 to 5 years / 4年以上 5年以下	7.7%	106
More than 5 years / 5年以上	11.3%	155

Were you / are you in Japan on an exchange program? (If you have studied in Japan multiple times please answer for your most recent time excluding programs of a month or less) 交換留学で来ました・来ていますか？（数回日本に勉強しに来た人は、もつとも一ヶ月以上の、最近の留学経験で答えてください）

選択肢	回答率	回答数
Yes はい	20.3%	280
No いいえ	79.7%	1096

How much money do / did you receive in a month from each of these situations. 次の項目ごとに、どのぐらいお金をもらっています・もらっていましたか？

選択肢	None / ゼロ	Less than 20k yen a month / 月 2万円以下	From 20k to 40k yen a month / 月 2万円以上 4万円以下	From 40k to 60k yen a month / 月 4万円以上 6万円以下	From 60k to 80k yen a month / 月 6万円以上 8万円以下	From 80k to 100k yen a month / 月 8万円以上 10万円以下	From 100k to 120k yen a month / 月 10万円以上 12万円以下	From 120k to 140k yen a month / 月 12万円以上 14万円以下	Above 140k yen a month / 月 14万円以上	回答数
Part Time Work / アルバイト	425	127	153	133	111	71	55	26	18	1119
Scholarship / 奨学金	448	32	42	118	75	62	120	101	315	1313
Other Sources / その他	591	49	54	67	46	52	22	14	32	927

How much do / did you gain and spend in total each month? 毎月の総合収支はどのぐらいですか・でしたか？

選択肢	Under 60k yen a month / 月 6万円以下	From 60k to 80k yen a month / 月 6万円以上 8万円以下	From 80k to 100k yen a month / 月 8万円以上 10万円以下	From 100k to 120k yen a month / 月 10万円以上 12万円以下	From 120k to 140k yen a month / 月 12万円以上 14万円以下	From 140k to 160k yen a month / 月 14万円以上 16万円以下	From 160k to 180k yen a month / 月 16万円以上 18万円以下	From 180k to 200k yen a month / 月 18万円以上 20万円以下	More than 200k yen a month / 月 20万円以上	回答数
Total Income from all sources / 全種類の収入の合計	194	148	155	189	201	282	64	52	54	1339
Total spending / 総支出	104	171	247	282	241	131	53	31	40	1300

Please tell us more about your Japanese language level. 日本語能力について教えてください。						
選択肢	None / Almost None ゼロ・ゼロに近い	Beginner 初級	Intermediate 中級	Advanced 上級	Near-native ネイティブに近い	回答数
When you first came to Japan 来日した当初	492	391	303	164	20	1370
Right now 今	23	271	365	534	154	1347

Before you came to Japan, how useful were the following sources of information about studying in Japan? 来日する前に、日本留学に関して次の情報源はどのぐらい役に立ちましたか？						
選択肢	Very Useful 大変役に立つた	Somewhat Useful まあまあ役に立った	Not very useful あんまり役に立っていない	Not useful at all 全く役になっていない	I did not use this source for information この情報源を使っていません 該当なし	回答数
Friends and Family 知り合いおよび家族	347	429	214	91	243	1324
Internet インターネット	662	463	114	28	68	1335
Information from schools in your country 自国の学校が提供した情報	252	351	225	141	345	1314
Outreach by Japanese Schools 日本での学校の広報	134	376	209	113	457	1289
Japanese embassies 自国での日本大使館	158	305	250	121	470	1304
Study Agents 留学エージェント	100	244	203	131	601	1279
Newspapers and TV 新聞・テレビ	56	249	282	165	538	1290

What were your reasons for coming to Japan? Choose all which apply. 日本に留学しようと思った理由を選んでください。当てはまる選択肢を全部選んでください。

選択肢	回答率	回答数
Attraction to Japanese culture 日本文化に対する親しみを持っていたから	68.2%	939
Low school fees / Scholarship Provision 学費が低い・奨学金の受給だから	54.7%	752
Because coming to Japan would advance my career. 日本留学が自分のキャリアに役に立つから	56.8%	782
High standard of Education 教育の質が高いから	31.3%	430
My friends / family in my home country had links to Japan 友達・家族が日本との関わりを持っていたから	42.0%	578
Because I have Japanese family / friends	41.8%	575
Ease of entering a Japanese institution 日本の学校は入学しやすいから	51.6%	710
Others (Please fill in your answer) その他(具体的に)	59.0%	812

選択肢	回答率	回答数
Information about schools 学校に関する情報	68.2%	939
Information about careers after graduation 卒業後のキャリアに関する情報	54.7%	752
Information about courses within schools	56.8%	782

学校内の専攻に関する情報	31.3%	430
Visa Information ビザに関する情報	42.0%	578
Information about culture and customs 文化・生活慣習に関する情報	41.8%	575
Information about part-time work アルバイトに関する情報	51.6%	710
Information about accommodation 住まいに関する情報	59.0%	812
Information about expenses 経費に関する情報	10.8%	148
Information about how the level of crime in Japan 日本における治安に関する情報	16.2%	223
Information about radioactivity in Japan 日本での放射能に関する情報	26.2%	361
Information about disaster safety in Japan 日本で災害時における安全性に関する情報	5.5%	75
Others (please fill in your answer) その他(具体的に)		

How far do you agree with this statement: "I feel that coming to Japan was the right choice." 「日本に来てよかったです」という文に、どのくらい共感しますか？

Strongly agree. 強く共感する	Somewhat agree. まあまあ共感する	Neutral. 中立	Somewhat disagree. あんまり共感しない	Strongly disagree. 全く共感しない。	回答数
672	450	205	39	10	1376

To you, what were the positive aspects of studying in Japan? あなたにとって、日本に来てよかったですと思う点はどれですか？

選択肢	回答率	回答数
High standard of living 生活基準が高いこと	45.4%	625
Ability to make Japanese friends 日本人と友達になれたこと	39.4%	542
Opportunity to experience Japanese culture 日本文化を体験できしたこと	74.9%	1030
High standard of education 教育の質が高いこと	53.6%	737
Opportunity to learn a different language 外国語を学ぶ機会	70.0%	963
Career development opportunities 自分のキャリアを向上させられたこと	56.0%	770
Ability to do part time work as a foreign student 留学生でいながらもバイトもできたこと	29.4%	404
Others (please elaborate) その他（具体的に記入してください）	6.2%	85

Which of the following did you have trouble with in Japan? 次の項目の中に、困ったと感じた項目はどれですか？

選択肢	回答率	回答数
Paperwork (applying for phones / insurance etc) 書類（電話・国民保健の申請など）	49.6%	683
Finding accomodation 住まいを探す事	33.6%	462
Standard of Education 教育の質が低い	9.8%	135
Making friends 友達を作ること	42.8%	589
Problems with renewing your visa status ビザの更新に関する問題	10.5%	144

ビザの更新に関する問題

Problems with changing your visa status (into a working visa for example) 就労ビザへの返還（ママ）など、ビザの返還（ママ）に関する問題	8.2%	113
Discrimination 差別	31.3%	431
Finding a part time job バイトを見つけること	22.4%	308
Restriction on number of hours of part-time work one can do バイトの時間制限	17.2%	237
Others (please elaborate) その他（具体的に記入してください）	17.2%	237

When you first came to Japan, what were your plans after graduation?

Choose all the options which you were considering. 最初日本に来た時に、卒業した後に何をすると思いましたか？考えていた選択肢を全部選んでください。

選択肢	回答率	回答数
Working in Japan 日本で働く	50.7%	698
Further studies in Japan 日本で進学	43.8%	603
Going back to your home country to work 母国に戻って働く	44.8%	617
Going back to your home country to continue studies 母国に戻って進学	11.8%	162
Going to a third country to work 第三国に行って働く	20.3%	279
Going to a third country to continue studies 第三国に行って進学	23.0%	316

For those who are still studying, what do you think you will do after you graduate? Choose all the options which you were considering. For those who are not studying now, what are you currently doing now?日本で勉強している人に対する質問：あなたは卒業後何をするかと思いますか？該当するすべての項目にチェックを入れてください。日本で留学していない人は、あなたは現在何をやっていますか？

選択肢	回答率	回答数
Working in Japan 日本で働く	52.7%	725
Further studies in Japan 日本で進学	36.8%	506
Going back to your home country to work 母国に戻って働く	42.4%	584
Going back to your home country to continue studies 母国に戻って進学	10.0%	137
Going to a third country to work 第三国に行って働く	20.4%	281
Going to a third country to continue studies 第三国に行って進学	24.0%	330

In your opinion, what prevents people from your country from coming to study in Japan? Choose up to three reasons (ママ) .あなたにとって、あなたの国の学生に日本留学を阻止する要因は何ですか？4つまでを選んでください。

選択肢	回答率	回答数
Lack of interest in or poor impression of Japan as a country. 日本という国に対して無関心・悪印象	21.9%	302
Lack of interest in Japan as a study location. 留学先として日本に対して無関心	21.9%	302
Lack of information on how to apply. 申し込みに関して情報不足	40.3%	554

Lack of information on individual courses / universities 個々のコース・大学の情報不足	31.7%	436
Lack of information on customs and culture 文化・生活習慣に関する情報不足	18.3%	252
Strict Admissions 厳しい選抜基準	15.3%	211
Worries about the language barrier 言葉の壁に対する心配	60.0%	825
Lack of seniors / friends already studying in Japan 日本すでに留学している先輩・友達の不足	18.2%	250
Lack of confidence in educational standards in Japan 日本の教育水準に対する懸念	13.3%	183
Lack of clear path to securing a career after graduation 卒業後にキャリアの道の不透明さ	26.7%	367
High costs 高い経費	55.8%	768
Cultural differences 文化の違い	27.0%	372
Others (please fill in your answer) その他(具体的に)	6.5%	89